

製品名: IL-8R β (リン酸化 Ser347) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04843**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CXCR2 CXCR2; IL8RB; C-X-C chemokine receptor type 2; CXC-R2; CXCR-2; CDw128b; GRO/MGSA
別名	receptor; High affinity interleukin-8 receptor B; IL-8R B; IL-8 receptor type 2; CD antigen CD182
遺伝子 ID	3579.0
SwissProt ID	P25025
免疫原	抗血清は、ヒト IL-8R ベータ/CDw128 ベータの Ser347 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 311-360

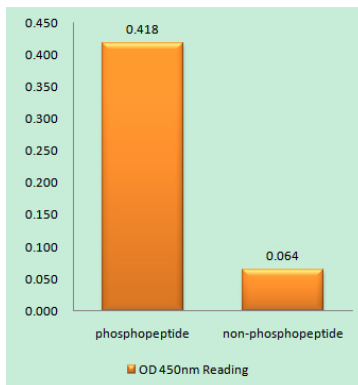
背景

C-X-C モチーフケモカイン受容体 2 (CXCR2) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、G タンパク質共役受容体ファミリーのメンバーです。このタンパク質は、インターロイキン 8 (IL8) の受容体です。IL8 に高親和性で結合し、G タンパク質活性化セカンド メッセージャー システムを介してシグナルを伝達します。この受容体は、メラノーマ増殖刺激性を持つタンパク質であるケモカイン (C-X-C モチーフ) リガンド 1 (CXCL1/MGSA) にも結合し、血清依存性メラノーマ細胞の増殖に必要な主要な構成要素であることが示されています。この受容体は、炎症部位への好中球の移動を媒介します。腸の微小血管内皮細胞における IL8 の血管新生効果は、この受容体を介していることがわかっています。マウスのノックアウト研究では、この受容体が、発達中の脊髄におけるオリゴデンドロサイト前駆細胞の移動を停止させることにより、その配置を制御していることが示唆されました。この遺伝子 IL8RA は、別の高親和性 IL8 受容体をコードする遺伝子であり、機能: 強力な好中球走化性因子であるインターロイキン -8 の受容体です。IL-8 がこの受容体に結合すると、好中球が活性化されます。この反応は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャー系を活性化する G タンパク質を介して媒介されます。IL-8 に高親和性で結合します。また、CXCL3、GRO/MGSA、NAP-2 にも高親和性で結合します。、オンライン情報: CXC ケモカイン受容体のエントリ,PTM: リガンド結合時にリン酸化され、脱感作に必要です。、類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。、

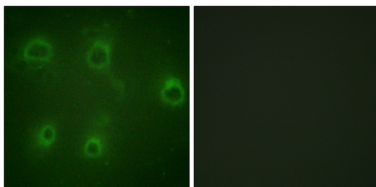
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、ケモカイン、エンドサイトーシス、ヘリコバクターピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達

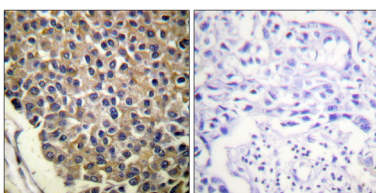
画像データ



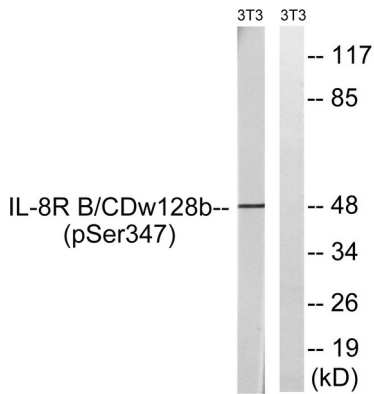
IL-8R beta/CDw128 beta (リン酸化 Ser347) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



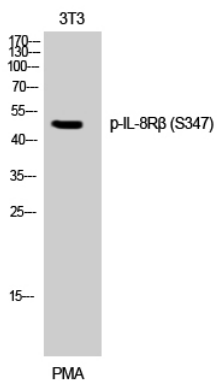
IL-8R β /CDw128 β (リン酸化 Ser347) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



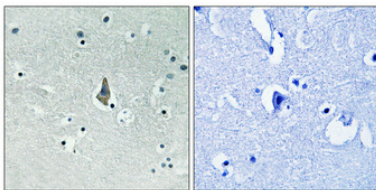
IL-8R β /CDw128 β (リン酸化 Ser347) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PMA 125 ng/ml 30 分処理した NIH/3T3 細胞のライセートを IL-8R beta/CDw128 beta (リン酸化 Ser347) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンがリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 IL-8R β (S347) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。